


教材・支援機器活用実践事例

【注意を向けるのが苦手、失敗や順番にこだわりすぎてしまう

児童への指導と教材活用】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	「よく見て わたろう」
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて注目し、活動中は注意を向け続けることができる。 ○シートをよく見て、体の動かし方を考えながら活動する。 ○友達への適切な応援や失敗したときの柔軟な対応ができる。
	授業における子どもの目標	<ul style="list-style-type: none"> ○指令を読んで覚え、シートをよく見て、抜かさずにゴールする。 ○友達の活動をよく見て、言い方に気を付けて応援する。 ○自分の活動を振り返って言語化し、次の活動に生かす。
子どもについて	学校・学級・学年	小学校 通級による指導（学習障がい等通級指導教室）下学年
	対象の障がい	自閉症スペクトラム障がい
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○体の使い方に不器用さがあり、注意して見るのが苦手。 ○一番へのこだわりがあり、失敗すると癇癪を起こしやすい。 ○学習したことをしっかり守ろうとする気持ちが強い。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<ul style="list-style-type: none"> ○色画用紙をラミネートしたシート 
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の場面で、待ち方や応援の仕方を練習できる（母の協力を得て） ○シートから大きく足を踏み外すと、審判役の母から終了の判定が出る。担当教諭が示したモデルから望ましい言動が学習でき、模倣すれば即時強化される。 ○どう渡ればシートを抜かさずにゴールできるか、プランニングする力を養うことができる。
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい応援の言葉や言わない方がよい言葉を事前に話し合い、吹き出しに記入して提示し、手がかりにできるようにする。 ○母の協力を得て、待ち方や応援のプロンプトを出してもらう。 ○学年に応じて、使用するシートの数を増減したり、指令カードの言葉を変えたりして、難度を調整する。
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ○体育のリレーのとき、一番になりたくて友達を非難したり癇癪を起して「もうやらない」と騒いだりする様子や、つい立ってうろろする姿が見られていたが、チームの様子を見て「頑張れ」、「行け、行け」、「また頑張ればいいよ。」等の言葉を言うようになった。 ○体育すわりで待っている時、すぐ砂いじりをして話を聞いたり演示を見たりできずにいたが、必要に応じて話や演示、友達の活動に注意を向けるようになってきた。

